

武中長沙區曲、忽見一士人、自云三閭大夫謂曲曰、聞君當見祭、甚善、常年爲蛟龍所竊、今若有惠、當以棟葉塞其上、以絲絲纏之、此二物蛟龍所憚、曲依其言、今五月五日作粽、并帶棟葉五花絲遺風也。

〔延喜式三十〕五月五日節料

粽料 糯米參議已上別八合、五位已上一合 捣栗子參議已上四合、甘葛汁上一合已上 枇杷參議已上二合、五位已上一合 筍子五圍、箸竹、串竹、各三圍、青蔥十一圍、生絲三兩、一銖、鮮物臨時買用參議及三位已上、料七月九月准此 大陶盤、洗盤、各四口、叩盆五口並納煮腊雜物、九月節盤金亦同

〔禁中年中行事〕五月五日 御獻粽 道喜調進之

〔日次紀事〕五月五日 真薦粽今日製粽家渡邊道喜相贈

〔殿中申次記〕五月四日 一粽百恒例 真木島次郎

五月 一粽百例年進上之 伊勢守

〔日次紀事〕五月五日 端五

今日端五節、中略、今日良賀造角黍食之、昔日屈原汨羅沒水死、後人每年以五色絲綴粃而弔之、此其始也、中略、市中家々各造粽食之、或互

〔日本歲時記〕五月四日、沐浴粽を製すべし、餌粽を製するには、もちよねを用ひず、粳米をきはめて白くし、細末して沸湯にてこね作り、又沸湯にてにる、又うるし米と、もち米等分にして水にて和し、沸湯にて煮もよし、凡ちまき餌などは、米を磨にて引たるはわろし、臼にてつき、末玄てよし、又粽を煮に、稻柴の灰汁にて煮べしと、月令廣義に見えたり、唐の代に端午の粽其品多し、角粽、菱粽、角黍、百索粽、九子粽あり、粽を角のごとくにし、又錐のごとくにし、又菱角のごとくにし、又竹の筒のごとくし、また秤の鑑のごとくにし、或五色の糸を繩になふて、數珠の如くつなぐもあり、我國にし、へば、粽を五色の糸にてかざりけるとなん、されば、伊勢物語にも、人のもとよりかざり、或だんごのとくして、九つらぬるものあり、いづれもまことの葉にてつ、むなり、是を角粽とも、角黍とも